

令和7年度入学式 学長式辞

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。ようこそ、鹿児島国際大学へ。学校法人津曲学園、鹿児島国際大学、鹿児島国際大学大学院の全教職員を代表して心から歓迎申し上げます。

この大学を運営する学校法人津曲学園は、一昨年（2023年）、創立100周年を迎えました。大正12年（1923年）に創立者津曲貞助が、学びへの意欲はあってもその機会に恵まれない若い女性たちのために旧制の高等女学校を設立したのが、津曲学園の始まりです。その後、昭和7年（1932年）には、本学の前身である旧制の高等商業学校を設立するなど、時代の変化と地域の要請に応じて各種の学校を整備し、今日までに、鹿児島国際大学、鹿児島国際大学大学院に加え、鹿児島高等学校、鹿児島修学館中学校・高等学校、鹿児島幼稚園を運営する一大学園へと成長しました。102年目の春に、この学びのコミュニティに加わってくださったみなさんとともに、先人たちが大事に育ててきたこの学園と大学の新しい歴史をかたち作っていくことを楽しみにしています。

最近新聞等の報道に接して驚かれた方もおられるかと思いますが、本学ではこの春で国際文化学部音楽学科の学生募集を停止し、来年（令和8年）4月から国際文化学科に「音楽文化コース」を設置することになりました。今日、新入生として音楽学科に入学してくださった

みなさんを含めて、現在音楽学科に在籍する学生全員が学窓を巣立つまで学科は存続し、学科を閉じた後も、卒業生に対する証明書の発行等は責任を持って継続します。音楽を学ぶ場を、学科として維持できなくなったことは非常に残念にも、また申し訳なくも思いますが、音楽学科から音楽文化コースへとかたちが変わっても、その教育課程の大枠と、少人数で親身な指導を徹底するという、鹿児島短期大学音楽科からつながる伝統は、今後も変わらず引き継いでいきますので、どうかご安心ください。

さて、最近、大学生たちがよく口にすることばのひとつに「ガクチカ」というものがあるそうです。「学生時代に力を入れたこと」を略して「ガクチカ」。就職活動の際に、エントリーシートに記入を求められたり、面接で尋ねられたりする、いわば定番の項目らしいですね。気の早い人は、入学した時から「ガクチカ」対策を考えるそうですから、新入生のみさんのなかにも、今からどうしようかと思悩んでいる人がいるかもしれません。

採用担当者が「ガクチカ」を尋ねるのは、志願者の個性や自発性を見るのによい質問だとされているからだそうです。自発性のほうは、常日頃の心がけ次第で何とかかなりそうな気もしますが、個性は一体どのようにして獲得し、育てていけばいいのでしょうか？ これは実にむずかしい問題です。

先日、NHK・E テレの「最後の講義」という番組に、俳優の岩下志麻さんが出演してしまし

た。小津安二郎監督の「秋刀魚の味」、東映の「極道の妻たち」シリーズなどで唯一無二の個性を発揮し、現在も第一線で活躍している日本映画界のレジェンドです。その岩下さんが、「人生最後の講義」という設定で若者たちを前に話をするという番組のなかで、「俳優としての個性を身につけるにはどうすればよいですか?」という質問に対して答えた一言が強く印象に残りました。それは「個性というのは、結果論のような気がします」ということばです。

岩下さんによると、個性とは、目の前の一つひとつの仕事に誠実に取り組むなかで結果として滲み出てくるものであり、個性を目指して何かをすれば獲得できるようなものではないということです。確かに、私の周囲にも、個性的な人はたくさんいますが、誰もやらないような突拍子もないことをしているから個性的なのではなく、みんなと同じような仕事をしていても、他の人が気づかないようなことに気づいたり、さりげない工夫をしていたりして、結果として、その人らしい仕事ぶりを発揮しているケースが多いように思います。

みなさんは今日から大学または大学院に進学し、学習や研究はもちろん、サークル活動、就業体験、アルバイトなど、さまざまな活動に取り組めます。今はまだ、自分は人に誇れる個性のない凡庸な人間だと思っているかもしれませんが、これから学内外で自発的に各種の経験を積むことで、結果として、今はまだ隠れている個性や自分らしさを発揮していくことでしょう。人生の時間は限られているにもかかわらず、そのうちの数年間を、大学という場で

過ごすことの意味のひとつは、そこにこそあります。

岩下さんのことばに加えて、私からみなさんに申し上げたいことは、「個性豊かな人たちとの交わりのなかで、個性は磨かれる」ということです。みなさんの周りには個性的な人たちが大勢いますか？ 「自分の周りには平凡な人たちしかいない」という人もいるかもしれませんがね。そんな人には、17 世紀フランスの哲学者、神学者、数学者、物理学者であり発明家、実業家でもあったパスカル (Blaise Pascal) のことばを贈りたいと思います。

「人は精神が豊かになるにつれて、自分の周りに独創的な人間がより多くいることに気がつく。しかし、凡庸な人というのは人々のあいだに差異があることに気づかない」(『パンセ』断章 7、鹿島茂訳)。

パスカルによれば、もしあなたがすでに個性豊かな人たちに出会っているとすれば、あなた自身がすでに豊かな精神を持った非凡な人であるということになりますし、逆に個性的で非凡な人とまだ出会えていないとすれば、その理由は、あなた自身が未熟で凡庸だからということになります。

これを聞いて、「じゃあ私は未熟で凡庸な、取り柄のない人間だ」と思う人もいるかもしれませんが、まったく心配はいりません。本学のような総合大学には、多種多様な分野を学ぶ

人たちが学生として集い、多種多様な分野の専門家が教員としてその指導に当たります。この大学で、個性豊かな仲間とともに学び、個性豊かな先生に教わることを通して、自分の個性も磨かれていくはずです。大学とは、学びによって精神を豊かにし、周囲の人たちの個性を発見するとともに、そのような人々との親密な交わりのなかでみずからの個性を磨く場所です。自分はまだ「未熟で凡庸な人」に過ぎないと思っている人たちが集まって互いに刺激を与えあうことによって、それぞれに「人を惹きつける個性的な人」へと変容していく場所なのです。

今日、みなさんは、鹿児島国際大学・鹿児島国際大学大学院という学びのコミュニティの一員として迎え入れられました。勉強でもサークル活動でもアルバイトでも、目の前のなすべきこと一つひとつにひたおきに取り組むことを通して精神を豊かにし、お互いに刺激を与えあいながら、一歩ずつ着実に自分の個性を磨いていきましょう。教職員一同、みなさんの歩みに寄り添い、心を尽くして成長を手助けします。みなさんに、心からの「おめでとう」を重ねて申し上げ、入学式の学長式辞といたします。

令和7年4月4日

鹿児島国際大学学長 小林 潤司